

# 笑顔ほくほく みんなで学ぶ JAにしたま芋ほり積金

研究員 佐藤彩生

## 1 収穫体験付定期積金の概要

東京都多摩西部に位置するJAにしたまでは、2009年から収穫体験付定期積金(写真)を提供している。契約者は子どもや孫と一緒に、5月にさつまいもの苗の定植、9月には芋ほりの体験ができる。こうした農業体験を通じて、普段農業との関わりが少ない人に農業や地元農産物に興味を持ってもらうことが当定積の狙いである。

JAにしたまは、1988年10月に羽村町農協、福生市農協、東京瑞穂農協、元狭山農協の4農協が合併し設立した。管内の農家数が少ないことから、組合員総数に占める准組合員の割合が8割と高く、都市的な色彩が強いJAで

ある。そのため、子どもを持つ若年層に親子で参加してもらうことで、小さい頃から少しでも農業に触れ、農業への理解を深めてもらいたいというJAの思いがあり、さらにそこからJAのファンを増やすことを目指している。

## 2 設定した募集数を上回る応募状況

当定積は、契約金額を毎月2万円以上10万円以下、契約期間を1年としている。募集期間内の応募は全て受け付けるが、人気商品であることから、応募数は設定した募集数を毎回上回っている。昨年度は200口の募集に対し、契約数237口、契約軒数159軒であった。しかし、収穫時期は子どもの運動会シーズンと重なることから、体験の当日に参加できない契約者が多く、昨年度の実際の参加軒数は45軒であった。なるべく体験への参加が確実な人に応募してもらいたいということから、今年度は設定募集数を半分にしたため、契約数117口、契約軒数78軒となった。

契約者は50～70歳代が8割強と高く、孫と一緒に土いじりをするのを楽しみにしている人が多い。また、今年は例年よりも30～40歳代の契約者が多く、親と子で参加できるレクリエーションとしての人気が高まっているようである。特典の内容のよさから、次年度も契約するリピーターも多い。

## 3 地元農家の協力と体験時の様子

当定積が毎年農業体験を提供できているのは、地元農家の協力による部分が多い。使用しているさつまいも畑(約20a)は、瑞穂町の農家に提供していただいている。その方は、トラクターでの耕うん作業や、参加者への定植指導も行い、職員や農業体験を全面的にサポートしている。非農家出身で農業の知識が浅い職

楽しみ増える定期積金

平成27年 平成27年  
5/10 6/30

JAにしたま

収穫体験付定期積金27

さつまいも 収穫体験の特典をお付けいたします。

さつまいも積金

例 契約期間：1年  
毎月の積金：2万円(※毎月)

24万円 満期金額

JAにしたま

※本誌掲載時(2015年11月)の募集状況です。募集状況は随時変更される場合があります。詳しくはJAにしたまの窓口またはお問い合わせください。

JAにしたま 本誌掲載時(2015年11月)の募集状況です。募集状況は随時変更される場合があります。詳しくはJAにしたまの窓口またはお問い合わせください。

JAにしたま TEL:042-594-4331 小倉支店 TEL:042-594-4337 瑞穂支店 TEL:042-594-4338  
東京支店 TEL:042-597-0044 立川支店 TEL:042-597-0057

収穫体験付定期積金のチラシ

員にとって、地元農家は心強い存在である。

5月下旬に行う定植の体験はそれだけでは時間が短いことから、おまけの作業として水やりや植付け場所の目印となる看板作りなども用意している。これらの作業は、子どもたちに少しでも農業に興味を持ってもらえるようにと、職員が後から発案して取り入れたものである。水やりは今年からの取組みであり、地元農家から水のタンクを借りて、ジョウロを用意した。職員の予想どおり、水やりの順番が回ってくるのを心待ちにした子どもが、目を輝かせながらジョウロを持ってタンク前に列を作っていた。また、看板のデザインコンテストも実施し、思い思いに描かれた看板が畑を賑わせている。

農業体験を楽しんでいるのは子どもたちだけではない。9月下旬の芋ほりでは「子どもが小さい頃に幼稚園で芋ほりをしていたのを思い出して懐かしい」などの声が聞かれた。子どもと一緒に参加することで、久しく農業との関わりがない世代が再び土に触れるよい機会となっている。

農業体験は芋ほりにとどまらない。瑞穂町の酪農家に協力していただき、会場にミルクカーを設置して、芋ほり参加者に搾乳体験も提供している。子どもたちが自分の何倍もの大きさの牛に恐る恐る近寄り乳を搾るなど、内容が盛りだくさんで“収穫”の多い定積に仕上がっている。

#### 4 土に奮闘する職員

農業体験付きの貯金商品は他のJAでも提供しているが、JAにしたまでは、職員が最初から最後まで農作業に関わっているのが一番の特徴である。契約者が行う作業はさつまいも栽培の全工程のうちのわずかな部分であり、定植前の準備や草取りなど手間のかかる作業は全て職員が地道に行っている(第1表)。これらの作業は30~50人ほどの職員が部署にか

(注)農林水産省「都市農業・都市農地に関するアンケート(平成24年度)」

第1表 収穫体験までの全作業工程

作業工程	
堆肥散布・トラクター耕うん	4/17まで
石拾い	4月中
マルチ張り	5月中旬まで
苗の定植	5/30
試し掘り(草取り)	適時
収穫体験	9/26

資料 JAにしたま提供資料

かわらず行っているが、そのほぼ全てが農業との関わりの少ない非農家出身者である。そのため、農業を一から学ぶ職員も多く、体当たりで取り組んでいる姿が見られる。

収穫体験当日には、受付や駐車場の整備、定植補助、進行係など、80人近くの職員が参加して、イベントがスムーズに進行できるようなオールサポート体制を取っている。支店の職員も含め、収穫体験の参加者に顔を覚えてもらうことで、後日推進する際のきっかけ作りにもなる。収穫体験に参加できなかった契約者には、後日推進担当者が収穫したさつまいもを直接届けに行く。「さつまいもが大きい」「よくできている」など芋ほりが話題になることで、利用者との関係構築にも一役買っている。

#### 5 都市における農業とのつながり

都市農業の機能については「身近な農業体験・交流活動の場の提供」といった期待が高いが、JAにしたまでは当定積をきっかけに、2013年から支店ごとにとうもろこしやみかんの収穫など地元の農家と協力した農業体験を提供している。JAを利用したことがない人も作業に気軽に参加し、JAのファン作りにつながっているようである。

当定積は、農業の現場との隔たりを感じやすい地域だからこそ、子どもたちに農業の大切さを教えておきたいと思う親がおり、職員がその気持ちに応え、地元農家が応援するという、生産者、消費者、そしてJAの「農への思い」が詰まっているハートフルな商品である。

(さとう さき)